



許せない・納得できない（正義の暴力）

皆さんは、誰かから「許せない」「納得できない」と責められたことがあるでしょうか。自分に非がある場合には、お詫びや反省は必要ですし、指摘していただいたことには感謝しなければなりません。自分としては相手に対する敵意や悪意がないにも関わらず一方的に責められる場合があり、この「正義の攻撃」は、逃げ場がなく、つらいものです。

私自身は、許せなくても、納得できなくても、相手に対して、個別にこの言葉を使ったことはありませんし、神様でも何様でもない自分は、よほどのことがない限り使ってはいけない言葉だと思ってきました。

もちろん、残虐な犯罪行為等の反社会的な行為に対しては、自分との直接的関係はなくても社会の一員として許してはいけませんし、社会生活における理不尽な攻撃やハラスメント等、自分に向かう暴力に対しても我慢したり許したりする必要はありませんが、今回私が述べる内容は、そのこととは別のことです。

そのような防衛的対応とは違い、自分の安全を確保した上で、自分の意に沿わない相手の言動に対して侵略的に踏み込むことには抵抗を感じます。周囲を見渡し、まず他人の言動をとらえ、自らの正当性を確信した上で、相手に対して「許せない」「納得できない」という考えを持ったり言葉や行動に表したりするのは、自己中心的で攻撃的な態度であり、以前の校長室だより（2022年6月3日号）で触れた「モラルハラスメント」の一種とも言えます。

私は、他人に対しての「許す」という行為や感情は、許してほしいと頼まれたときに初めて意味を持つと思っています。「納得」に至っては、自分のこだわりを他に押しつけることにもなりかねません。

自分の感覚だけで他人を見て、「許す」「許せない」「納得できない」と言う人は、その主張が正しいければ正しいほど、暴力的になります。「許せない」相手は、正義に打ちのめされ、抵抗できません。自分の正義に基づき人を罰することが、一種の快感になる場合さえあります。自分が支持するルールから外れた行動など、分かりやすい攻撃対象を見付け、正義の名の下に攻撃します。インターネット上の誹謗中傷にも、同様の精神状態を感じます。

自分にとって「間違ったことが許せない」「間違っている人に、罰を与えなければならない」「私は正しく相手が間違っているのだから当然だ」など、「許せない」といきり立つ人は、自分の正義を確信すればするほど、いくら攻撃しても自分の立場が脅かされる心配がない状況を後ろ盾にして、正義を振りかざします。間違いを犯した側に非はあっても、責める側にとってどんなに「許せない」ことであっても、その行動には何か「わけ」があったはずですし、100%悪いなどということはありません。しかし、正義の攻撃は、情状酌量の余地を残しません。本来人間に備わっているはずの「冷静さ」「自制心」「思いやり」「共感性」などは、消え失せてしまいます。

大人同士でも十分に気を付けなければなりません。それ以上に、教職員が子供に対して指導する場合にも、注意が必要です。問題行動等に際して教育者として子供たちを「諭す」ことはあっても、「許す」こととは違います。自分を基準として、「自分が納得し、許すこと」を指導の目的にしてはいけません。「許せない」そんな暴力的で感情的な正義感を、大切な子供たちへ向けてはいけません。

子供たちの未来と、未来の社会のため、正しく成長してほしいと願いながら、「冷静さ」「自制心」「思いやり」「共感性」を持って指導にあたることを、今後も肝に銘じて参ります。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2023年2月10日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）